

外国人児童生徒向け 進路相談会開催のための手引き

公益財団法人愛知県国際交流協会



はじめに

「高校である先生に出会ったおかげで、今の自分があります。」

子どもの頃に来日し、今は日本の社会で活躍されている方が、進路相談会で自らの体験談を発表する場でそう語りました。小・中学校では日本語の習得にも、日々の学習にも苦勞されて、何とか高校進学は果たせたものの、将来についても不安を抱えている時に、とても親身になって話を聞いてくれ、高校卒業まで学習面でも生活面、精神面でもサポートしてくれた先生がいっちゃったとのことでした。

一方で、高校入試には合格したのに保護者が進学に必要な費用を用意できず諦めることになってしまった人、せっかく高校に進学したけれど勉強についていけず辞めてしまった人など、悲しい報告をする方もいて、会場にいた外国人児童生徒の保護者や支援者が涙する場面もありました。

日本ではほとんどの中学生が高校に進学をされると言われていますが、愛知県では日本語指導が必要な生徒の進学も徐々に増えてきました。外国人生徒特別選抜などの選抜試験の際の配慮に加え、令和7(2025)年度からはフレキシブルハイスクールや公立の中高一貫校などの新しい取組もはじまり、外国人生徒の高校進学のための環境がさらに整ってきています。

このように制度が充実する一方で、情報へのアクセスや制度への理解の困難さなどから、外国人児童生徒や保護者にとって、進学には幾つかのハードルが存在します。

必要な情報を迅速に、正しく伝えるための進路相談会によって、ハードルを下げるまたは無くすことが大切だとの思いから、この冊子を作成しました。本冊子を使って、多くの市町村や教育委員会、学校や日本語教室をはじめ、外国人児童生徒に関わる機関・団体に進路相談会を開催していただけますと幸いです。また、相談会に限らず、三者懇談・保護者会などを含め、外国人児童生徒や保護者が進路を考えるべき機会にも、是非ご活用いただきたく存じます。

本冊子の作成にあたり、教育委員会やNPOの方々などに検討委員として多くの御助言と御協力をいただきました。また、その他の関係機関の皆様にも原稿作成にあたり御協力いただきました。改めて、皆様には感謝を申し上げます。

令和7(2025)年3月
公益財団法人愛知県国際交流協会

目次

はじめに	P.1
------	-----

目次	P.2
----	-----

序章	P.6
----	-----

1. 外国人児童生徒(外国につながりを持つ子ども)について..... P.6
2. 教育相談会、進路説明会の重要性..... P.7
3. 本冊子について..... P.7



第1章:企画する	P.8
----------	-----

1. 実施主体(主催者)と協力機関・団体..... P.8
2. 対象と目的..... P.10
3. 内容(開催時期や場所の検討含む)の設定..... P.12
 - (1)開催時期
 - (2)開催場所
 - (3)内容
 - (4)講師等
 - (5)通訳／翻訳者



4. 予算..... P.14
 - (1)必要な額の算出
 - (2)予算確保(予算要求時期、補助金、助成金等)

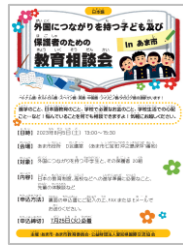


第2章:準備をする	P.16
-----------	------

1. 会場手配..... P.16
 - (1)場所
 - (2)会場の使用時間
2. 講師、体験談発表者等の依頼..... P.16
 - (1)講師
 - (2)体験談発表者
 - (3)その他

3. 広報と参加者募集 P.17

- (1) 広報する時期
- (2) 広報先と媒体
- (3) チラシ



4. 通訳手配 P.18

5. 資料作成と翻訳 P.19

- (1) 配布資料
- (2) 内部資料
- (3) 翻訳

6. 必要物品の準備 P.20

- (1) 掲示物
- (2) 内部資料
- (3) 会場内で必要な物



第3章:開催する

P.22

1. 開始直前 P.22

- (1) 打合せの実施
- (2) 会場設営
- (3) 講師や通訳スタッフの対応



2. 開催中 P.23

- (1) 受付
- (2) 進行
- (3) 記録・撮影
- (4) トラブル対応
- (5) アンケート回収



3. 終了後 P.25

- (1) 会場の復元
- (2) ミーティング、ふりかえり

第4章:参考資料等

P.26

1. 資料・印刷物等の例 P.26

- (1) 参加者募集チラシ
- (2) プログラム
- (3) 講義資料
- (4) その他



2. 教育相談会事業等の実施事例 P.28

3. 情報入手先など P.28

- (1) 参考資料、サイト等
- (2) 関係機関

4. 資料等に使える単語一覧 P.30

- (1) チラシ
- (2) 配布資料
- (3) その他

愛知県国際交流協会の外国人児童生徒に関する事業 P.34



コラム

学齢超過の子どもたちとは? P.15

教育相談会実施事例を見てみよう♪ P.20

- 名古屋YWCA
- あま市・あま市教育委員会

外国人選抜試験のある高校はこんなところ! ~愛知県立衣台高校~ P.21

上手く伝えるためには? P.36



開催までのスケジュール(例)

1年前	<p>第1章:企画する</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 対象(外国人児童生徒等)やニーズ、他事例の調査 ◇ 予算確保 ◇ 協力機関・団体検討 ⇒ 依頼 	
半年前	<p>第2章:準備する</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 会場手配 ◇ 講師・体験談発表者等の依頼 ◇ 通訳手配 	
5か月前	上旬	◇ 資料作成 開始
	中旬	
	下旬	
4か月前	上旬	◇ 広報準備 開始
	中旬	(チラシ作成開始、送付先検討など)
	下旬	◇ チラシ(日本語)原稿完成 ⇒ 翻訳
3か月前	上旬	
	中旬	◇ 資料(日本語)完成⇒翻訳
	下旬	◇ 講師・通訳等との打合せ ◇ 必要備品・物品等調達
2か月前	上旬	◇ 参加者募集 開始
	中旬	
	下旬	
1か月前	上旬	
	中旬	◇ 資料(多言語)完成⇒印刷
	下旬	◇ 参加者申込締切
開催月	<p>第3章:開催する</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 前日準備 ◇ 当日の運営 ◇ 片付け <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold; color: red;"> ★ ★ 開催 ★ ★ </div>	
事業後	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 各種支払い手続き ◇ アンケートとりまとめ ◇ ふりかえり、報告書等の作成 ◇ 講師等への礼状送付 	



外国人児童生徒(外国につながりを持つ子ども)について

国籍や家庭環境など、何らかの形で外国にルーツを持つ子どもを「**外国につながりを持つ子ども**」と呼びます。同じような表現で、「外国にルーツを持つ子ども」や「外国につながる子ども」、「外国人の子ども」などがありますが、場合によっては「外国人児童生徒」には日本国籍の子どもは含まれないこともあります。本冊子では便宜的に「**外国人児童生徒**」で統一させていただいております(日本国籍も含みます)。

次のように、外国籍の子どもだけではなく、日本国籍でもいずれかの親が日本以外の言語・文化背景を持つ子どもや、海外に長期滞在して日本に戻ってきた帰国子女など、子どもが持つ背景はさまざまです。

- ・海外から来日した子ども
- ・日本で生まれ育った外国籍の子ども
- ・二重国籍の子ども
- ・日本国籍と外国籍の親を持つ、日本国籍の子ども
- ・外国籍の親や国際結婚をした親から生まれ、手続きがなされず国籍のない子ども …など

愛知県は東京に次いで全国で2番目に外国人が多く住む地域ですが、特に定住者・永住者をはじめ、長期滞在する外国人が約6割と多く、家族で日本に暮らす方々が多くなっています。子どもたちの数も比例して多いわけですが、前述のように家族と一緒に来日した子、日本で生まれる子、後から呼び寄せられる子など、来歴も様々で、来日時の年齢や学習・就学歴、日本語能力などもそれぞれ異なります。そして、抱える課題も様々です。

外国人児童生徒の状況や抱える問題等の例

Aさん

- ・外国人の両親の間に日本で生まれた。家族とは母国語で会話している。
- ・両親は共働きで、夜勤なども多く、小さい頃は兄弟とともに家で過ごすことが多かった。保育園に通うようになってから、少しずつ日本語が分かるようになってきた。
- ・小学校に上がり、友だちとのコミュニケーションは問題ないが、学校の授業には全然ついていけないので、地域の日本語教室で学習支援を受けている。



Bさん

- ・中学3年生になったばかりの頃、母国から日本で暮らす親の元に呼び寄せられた。
- ・公立の中学校に編入したが、授業がさっぱり分からない。日本語が全く話せないなので友だちもできなくて、最近では学校を休みがち。
- ・高校には進学したいので、日本語をもっと勉強したい。中学校も卒業したい。

また、不就学の子どもや学齢超過生については、進学等の案内や情報を学校から入手することができず、取り残されがちのため、特に配慮が必要です。

このように様々な背景を持つ子どもたちがいる中、一人ひとりの課題やニーズを理解した上で、学習支援や進学・就職支援などを行っていくことが大切です。

教育相談会、進路説明会の重要性

外国人児童生徒は、日本人の子どもたちと同じように、将来、地域の担い手となる大切な存在です。バイリンガルやトリリンガルであること、日本と母国の両方の文化を理解していることなど、外国につながりを持つことのメリットを生かした活躍も期待できます。彼らのキャリア形成を支援し、進学・就職に向けた環境を整備することは、彼らの未来の選択肢を広げるだけでなく、日本社会にとっても大変重要な課題です。

愛知県が2021年に外国人児童生徒と保護者向けに実施したアンケートでは、ほとんどの外国人児童生徒が日本で高校や大学に進学、または就職して日本で暮らし続けることを望んでいるという結果が出ています。保護者も子どもたちの進学を期待しているという回答が多くありましたが、一方で経済事情や情報不足などの悩みを抱えている人も少なくないようです。

また、日本の教育制度や受験制度などは年度によって変わったりもするため、常に最新の情報を入手する必要があります。制度の内容もとても複雑で、日本人であっても分かり辛いことがありますので、外国人など馴染みのない人にとってはさらに難しいことでしょう。

一般的には、各学校で、児童生徒や保護者向けの進路説明会などが行われます。愛知県では、特に、外国人が多く住む市町村において外国人児童生徒と保護者を対象とした相談会や説明会を、教育委員会や国際交流協会などが実施しています。このような取組が広がることにより、より多くの外国人児童生徒が自身の将来を考える機会を得て、自分たちも地域の一員として一層輝けるようになりたいと思えるきっかけになればと思います。

本冊子について

当協会では、平成24(2012)年度から、外国人児童生徒と保護者向けの進路相談会事業を県内市町村等との協働で開催してきました。一部の市町村では、当協会と実施した後も、独自で事業を継続実施されているところがあります。

本冊子では、さらに多くの地域でも進路相談会事業が開催されるよう、これまでの事業をふりかえりながら、事業の企画から開催までの流れや注意点をまとめるとともに、相談会で活用できそうな資料などを紹介しています。

この冊子のおりに準備・開催していただくのもいいですが、開催の規模や時期、場所によっても開催方法・内容は異なりますので、必要な項目だけを抜粋してお使いいただいてもいいかと思えます。例えば、日本語教室で学習者だけを対象に行う場合は、広報、会場確保などの項目は不要となるでしょう。

大切なのは、どんな外国人児童生徒を対象にしているのか、彼らがどんな情報や支援を必要としているのかを企画段階からしっかり考え、取り組んでいくことです。

当協会で開催した進路相談会の内容や、実際に使った資料も掲載させていただいております。また、県内の市町村や学校の開催情報や外国人児童生徒に関する取組も併せて紹介しています。進路相談会はもとより、懇談会や進路指導の際など、外国人児童生徒や保護者に対して進路に関する情報提供をする際にも、ご参考にしていただけますと幸いです。



第1章：企画する

1年前～	半年前～1か月前	開催月
第1章：企画する > 対象(外国人児童生徒等)やニーズ、他事例の調査 > 予算確保 > 協力機関・団体検討 ⇒ 依頼	第2章：準備する > 会場手配 > 講師等の依頼 > 通訳手配 > 資料作成、翻訳 > チラシ作成、参加者募集 > 講師等との打合せ > 必要備品・物品等の調達	第3章：開催する > 前日準備 > 当日の運営 > 片付け > (事業後)ふりかえり等

本章では、進路相談会の企画する際の流れやポイントを中心に説明します。

教育相談会や進路説明会を実施するにあたっては、誰が、誰のために、どんな成果を目標に、どのような内容の事業を展開するかを検討することがまずは重要となります。

企画の参考とするため、他の相談会等を見学したり、すでに実施している市町村や機関・団体(第4章(P.26)参照)などに内容等を聞き取り調査したり、資料をもらったりしておくといでしょう。

★企画する上で考えること

- > 誰が開催するのか? ➡ 1. 実施主体(主催者)と協力機関・団体
- > 誰のため、どんな結果を目指した相談会か? ➡ 2. 対象と目的
- > どんな内容を盛り込むべきか? ➡ 3. 内容
- > 事業実施にかかる費用はどのくらいで、どのように調達するか? ➡ 4. 予算
- > 企画書を作成する ➡ 5. 企画書

1.実施主体(主催者)と協力機関・団体

外国人児童生徒向け進路相談会の実施主体としては、学校や市町村教育委員会、市町村多文化共生担当課、市町国際交流協会、子ども向け日本語教室をはじめ外国人支援団体など、様々な機関・団体が考えられます。

実施主体には、それぞれ得意とする分野、不得意な分野があります。地域の状況や内容等によっては、より効果的かつ効率的な事業とするために他の機関等と連携・協力して臨むことが必要でしょう。なお、複数の機関・団体に関わる場合は、事前に打合せを行い、役割分担を決めておくことを忘れずに。

★各主体の強みと考えられる課題

主体	強み	考えられる課題
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に児童生徒と接しており、個々の学習状況や抱える課題について把握しやすい。 ・保護者との連絡が取りやすい。 ・学校内で開催することで体育館等の会場確保がしやすく、児童生徒・保護者が参加しやすい。 ・児童生徒の進路に関する情報収集がしやすい。 ・進路指導担当教員などの人材が確保されている。 ・市町村の教育委員会との連携が取りやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多言語対応できる人材が確保されていないことがある。 ・児童生徒の個別の細かいニーズに対応しきれない場合もある。 ・NPOなど外部の団体やボランティアとの関係づくりができていないこともあり、連携が難しい。 ・不就学者や学齢超過の子どもの把握と対応が難しい。
市町村教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村内全ての学校に通う児童生徒を対象とした事業を実施できる。 ・公民館など、より広い会場を手配しやすい。 ・児童生徒の進路に関する情報収集がしやすい。 ・進路指導担当教員などの人材が確保されている。 ・学校や市町村多文化共生推進担当課との連携が取りやすい。 	

主体	強み	考えられる課題
市町村(多文化共生担当課)、国際交流協会	<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろから多言語の情報発信や外国人住民向けのイベント開催等の業務を実施しており、外国人に関する情報やノウハウがある。 ・学校や市町村多文化共生推進担当課との連携が取りやすく、そこから必要な情報や人材の確保がしやすい。 ・多言語の対応ができる相談員やボランティア等の人材が確保しやすい。 ・NPO等との関係性ができている場合が多く、連携しやすい。 ・市町村内全ての学校に通う児童生徒を対象とした事業を実施できる。 ・不就学者も支援対象とできる。 ・公民館など、より広い会場を手配しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の個別の細かいニーズに対応しきれない場合がある。
外国人支援団体(子ども向け日本語教室等)	<ul style="list-style-type: none"> ・多言語の対応ができるボランティア等の人材確保ができる場合もある。 ・個々の児童生徒のニーズに合わせ柔軟に対応ができる。 ・不就学者も支援対象とできる。 ・日本語教室卒業生等、体験談発表を依頼できる先輩とつながりがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や行政とのつながりが薄い場合もある。 ・開催にかかる資金の確保が難しい。 ・最新の進路や教育に関する情報の入手が難しい。
協力団体	強み	考えられる課題
県内高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・高校の具体的なスケジュールや生活について話せる。 ・高校生活についての悩みや不安に答えることができる。 ・体験談発表の生徒を確保できる。 ・入試情報や学校説明会についてのノウハウがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の高校の実情を話すことが難しい。

<連携実施の一例>

※役割分担については、第2章(P.16)も参照

機関・団体	主な役割
●●市(担当:多文化共生担当課) 【主催者①】	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会や学校等との連絡調整 ・会場提供、必要機材等貸与 ほか
●●市教育委員会、学校 【協力機関】	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導教員による講師 ・学校でのチラシ配布 ほか
市内の子ども向け日本語教室 【協力団体】	<ul style="list-style-type: none"> ・教室でのチラシ配布 ・子ども及び保護者への連絡調整 ほか
県国際交流協会 【主催者②】	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ作成、翻訳、印刷 ・経費負担 ほか

2. 対象と目的

事業の対象となる外国人児童生徒(外国につながりを持つ児童生徒。日本生まれ、日本国籍を持つ者も含む)の状況を正しく把握しておく必要があります。

まずは、次のような情報を集めることから始めましょう。

★参考となる情報

- ▶市町村内の外国人児童生徒数(国籍、年齢・学年、母語、日本語能力)
- ▶学校(学区)ごとの外国人児童生徒数(国籍、学年、母語、日本語能力)
- ▶不就学、不登校の子どもの状況
- ▶市内の学校での日本語や進学に関する支援の取組と、支援を受けている児童生徒の数
- ▶子ども向けの日本語教室や学習支援教室の有無と、そこに通う子どもの数とニーズ …など

<外国人児童生徒の状況に関する資料の一例>

※第4章(P.28)の外国人児童生徒に関する情報資料例も参照

●●市の外国人児童生徒の状況

①外国人児童生徒の在籍する学校数

	総学校数	該当学校数	特に多い学校(人数/割合)
小学校	45校	30校	△△小(△人/△%)、□□小(□人/□%)
中学校	20校	15校	〇〇中(〇人/〇%)、☆☆中(☆人/☆%)

②外国人児童生徒の国(言語別) ※過去3年の推移(総数及び上位5か国まで)

		R3	R4	R5
上位5か国	ブラジル(ポルトガル語)	200人	225人	240人
	フィリピン(フィリピン語)	110人	130人	155人
	中国(中国語)	55人	65人	75人
	ベトナム(ベトナム語)	30人	50人	70人
	ネパール(ネパール語)	6人	20人	35人
総数		450人	530人	620人

③学校で日本語教育を行うための人的配置について

- ア. 日本語学級適応担当教員(県が配置)
- ・小学校:1人配置15校、2人配置8校、3人配置5校、4人配置2校
 - ・中学校:2人配置8校、3人配置5校、4人配置2校
- イ. 日本語教育講師(●●市が派遣)
- ・ポルトガル語5人、フィリピン語3人、中国語2人、ベトナム語1人
- ウ. 語学相談員(県から派遣)
- ・ポルトガル語1人、フィリピン語1人、スペイン語1人

④日本語教育を必要とする児童生徒の指導について

- ・児童生徒の実態に応じ、入り込み授業や取り出し指導を実施(各学校)
- ・日本語学級適応担当教員や日本語教育講師等による生活面の適応、日本語学習、教科学習の支援や指導

(1) 情報収集…在住の外国人児童生徒に関する情報

外国人児童生徒に関する情報は、市町村教育委員会で取りまとめていることが多いので、問い合わせてみるといいでしょう。

なお、学校ごとの在籍児童生徒数など、一部、あまり外部には公表していないデータもあります。市町村の教育委員会や多文化共生担当課以外の機関・団体が主催する場合は、事業の趣旨をきちんと説明し、教育相談会を開催する上での参考とするために必要であることを伝えて、理解を得るように努めるといいでしょう。

また、教育委員会で情報を持っていない場合でも、教育相談会に協力してもらうことにより、あらかじめ調査等を行い、取りまとめてもらえることも考えられます。そのような状況把握がきっかけで、外国人児童生徒向けの支援事業等に繋がる可能性もありますので、あきらめずに働きかけていくのではないのでしょうか。

(2) 相談会のターゲットの設定…保護者や支援者を含めるかどうか

★ターゲットの一例

- ▶ ○○中学校の3年生の外国人生徒
- ▶ △△小学校の6年生の外国人児童
- ▶ 市内の小・中学校の外国人児童生徒
- ▶ ○○中学校の1～2年生の外国人生徒
- ▶ 市内の全中学校の3年生の外国人生徒
- ▶ 市内の不就学者で、高校進学する年齢の子ども…など

教育相談会には、児童生徒のほか、保護者や支援者などが参加する場合も多くあります。児童生徒と一緒に聞いた方がいい内容と、保護者や支援者が聞くべき内容とがあるので、時間や場所を分けて実施するといいいでしょう。

設定した対象によって、事業の目的もほぼ定まってきます。

(3) 相談会の目的(相談会の目指す具体的な成果)を考える

★対象別の事業目的例	
対象	目的
	高校等への進学や就職など中学卒業後の進路決定に関する情報提供
中学3年生、不就学者で 高校進学の年齢	進路選択に当たって考えるべきこと(困った時の相談窓口など) 近隣の高校の内容(普通科、商業科、定時制)などの説明と卒業後の進路の説明、進学せず就職する場合の企業の状況等 進学・就職準備に向けてしなければならないことの情報提供 ※保護者向け…進学に向けた経済面の諸注意
中学1～2年生	進学・就職に向けた学習計画の策定支援(困った時の相談窓口など) 学校の種類や卒業後の進路の現状 【先輩からの体験談を聞くのもいいでしょう】 ※保護者向け…進学に向けた経済面の諸注意
小学6年生	進学・就職に向けた中学3年間での学習や生活に関する諸注意 ※保護者向け…進学に向けた経済面の諸注意

3. 内容(開催時期や場所の検討含む)の設定

「2. 対象と目的」を踏まえ、対象者のニーズに合った事業を効果的・効率的に行うことができるよう、内容をしっかり検討しましょう。

(1)開催時期

中学3年生を対象とした高校進学のための教育相談会(進路説明会)なら中3の夏～秋、中学2年から3年に上がる前の準備としての相談会であれば年度末など、最大限に役立つ情報が提供できる適切な時期は、対象と目的によって異なります。

対象者が参加しやすい時期や曜日・時間を選択することも大切です。保護者に参加してもらいたい場合は、土・日曜日での開催や平日であれば、夕方以降の開催が良いことが多いでしょう。

(2)開催場所

対象者や保護者が最も集まりやすい会場を選ぶようにしましょう。

一般的に、対象となる児童生徒が通う学校での実施が参加しやすいと思われます。学校に併設されている市民向け施設などを活用してもいいでしょう。

市内全域を対象としたり、複数の学校に所属する児童生徒を対象とする場合は、検討が必要です。市民館・公民館など、学校以外の場所で、比較的集まりやすいところも会場候補に入れるといいでしょう。交通の便や駐車場の確保なども考慮して選ぶことが大切です。

学校以外の場所を使う際には、会場使用料や機材等レンタル料などの経費がかかることが多いです。市町村や教育委員会などが管理運営する施設であれば、利用料の減免などの特別配慮を受けることが可能な場合もあるので、相談してみましょう。

学校や教育委員会以外の機関・団体が、学校内の施設を借りて事業を行うことは、安全面や施設管理面など様々な事情でハードルが高いところが多いようです。

「学校に頼んでみたけど、断られた」という場合でも、すぐに諦めず、教育委員会に共催や協力を依頼するなど、いろいろなアプローチを試してみてもいいでしょう。

(3)内容

「2. 対象と目的」に合ったプログラムを考えましょう。

講義のみ、個別相談の時間を設ける、先輩からのアドバイスや体験談も盛り込む等、伝え方や手法は様々あります。当初の目的を果たすことができる内容となるよう、工夫しましょう。

★プログラム例

※内容やプログラムについては、第2章(P.16)と第4章(P.26)参照

➤第1部:日本の教育制度と中学校卒業後の進路について知ろう

- ・講義、質疑応答
- ・先輩からの体験談発表

➤第2部:個別相談会(進路指導担当教諭等による相談対応)

重要!

進学・教育にかかる費用についての情報は特に重要です。せっかく入学できても、学校の費用が支払えないため、勉強を続けられない生徒も少なくありません。相談会だけでなく、様々な場面で、できるだけ早めに保護者に情報提供をしておきましょう。

(4) 講師等 ※講師の依頼方法については、第2章(P.16)参照

内容に合わせた講師などを選ぶ際は、できるだけ地域の外国人児童生徒の状況の分かる地元の方にお問い合わせするといいでしょ。

講師は、地域の教育委員会の指導主事や、中学校の進路指導を担当している先生、NPO法人の方に依頼するといいでしょ。追加で地域の生徒がよく進学する高校の先生に、高校生活や生徒の様子等を話してもらいたいと思います。

また、体験談発表者は、参加者の子どもたちのロールモデルになるような方を探すとよいと思います。来日した時期や国籍、年齢や学年、進学先等が異なる子どもや、既に就職しており地域で活躍している方等にお問い合わせするといいでしょ。様々な背景がある方からの体験談発表を通して、参加した子どもたちの可能性も広がります。

★講師等候補の一例**① 講義:**

中学校の進路指導担当教員、市町村教育委員会指導主事、県教育事務所指導主事(教育制度について等)、県高等学校教育課指導主事(高校生活について等) など

② 先輩からの体験談:

対象となる児童生徒の学校を卒業して進学や就職をした方、以前にその地域の日本語教室に通っていた方、それらの子どもの保護者(心構えや準備したこと等) など

③ ファシリテーターやアドバイザー(全体の進行や質疑応答・体験談発表などの取り回し、学習についてのアドバイス等を行う人):

学校教員、国際交流協会職員、子ども向け日本語教室ボランティア など

(5) 通訳／翻訳者

講師等と同じように、通訳者や翻訳者もできるだけ地元の方にお問い合わせすると、事業後にもいろいろな場面で協力いただけることがあります。市町村の相談窓口の通訳や、学校の語学相談員、国際交流協会のボランティアなどから協力してもらえる方を探してみましょ。

通訳は、次のような方に依頼することがあります。

- ・市町村や国際交流協会の外国人相談窓口のスタッフ
- ・語学相談員・語学支援員・外国人生徒教育支援員など、学校で外国人児童生徒の指導にあっている方
- ・学校や教育委員会に派遣されているALT(外国語指導助手)
- ・地方公共団体の国際交流担当部局等に派遣されているCIR(国際交流員)

地域の様々なリソースをこの機会に新たに発掘してもいいかもしれません。特に外国人の講師に外国と日本の教育制度や、就職事情の違い等を話していただくのであれば、外国人コミュニティや外国人が多く集まる教会・レストラン、日本語教室の学習者や外国人児童生徒の保護者なども候補にするといいでしょ。

また、必ずしも外国人である必要はありません。企業の海外駐在経験者や留学経験者など、幅広く探してみてもいいか。

4. 予算

(1) 必要な額の算出

まず経費をできるだけ具体的にあげて、全体でどのぐらい必要かを調べましょう。

★主な予算科目と内容	
報償費	講師や通訳、体験談発表者、ボランティア等への謝礼 ほか
旅費	講師や通訳、体験談発表者、ボランティア等の交通費、打合せや準備にかかる職員・スタッフ等の交通費 ほか
需用費	チラシや資料の印刷費、グループワーク等に必要なペンや模造紙などの消耗品、講師等のための飲料水 ほか
役務費	チラシや資料・物品の送料、連絡通信費、ボランティア保険料 ほか
使用料及び賃借料	会場の賃借料、プロジェクタ等機器のレンタル料、講師送迎等のためのタクシー借り上げ料 ほか

★予算目安 ※13:00～15:30(2.5時間)に6言語で開催した場合

役割	項目	単価	予算(目安)
講師	報償費	12,000円/1時間	12,000 × 1時間 = 12,000円
	旅費	実費	990円 × 1人 = 990円(目安)
ファシリテーター	報償費	12,000円/1時間	12,000円 × 2.5時間 = 30,000円
	旅費	実費	990円 × 1人 = 990円(目安)
体験談発表者	報償費	3,000円/1日	3,000円 × 3人 = 9,000円
	旅費	実費	990円 × 3人 = 2,970円(目安)
通訳	報償費	3,000円/1日	3,000円 × 6人 = 18,000円
	旅費	実費	990円 × 6人 = 5,940円(目安)
翻訳	翻訳費	8～16円/1文字	8～16円 × A4(720文字程度) = 5,760～11,520円(目安) ※上記は一般的な言語(英語・中国語等)
計			85,650～91,410円

※なお、予算は目安ですので講師や通訳等と相談の上、謝金や交通費について決定してください。

※翻訳費は言語や会社によって異なりますので、翻訳会社にご確認ください。

(2) 予算確保(予算要求時期、補助金・助成金等)

(1)の必要額は、基本的に実施主体が準備するものです。主体によっては、実施を計画する前年度には予算を確保するための準備をする必要がある場合があります。

例えば、県や市町村などの公的機関が新規事業として予算取りをするためには、前年度の夏までに予算担当部局へ相談する必要があるところが多いようです。

自主財源が確保できない時は、予算確保ができる機関・団体に共催してもらったり、助成金・補助金などの活用を検討しましょう。

助成金・補助金の制度は、国・県・市町村などの公的機関や国際交流協会等の団体、企業やNPO活動支援団体などが持っていますので、WEB検索等で探してみるといいでしょう。

<参考>

(公財)愛知県国際交流協会「国際交流推進事業費補助金」

<https://www2.aia.pref.aichi.jp/kikaku/j/joseishien/hojokin.html>



(公財)助成財団センター「助成・奨学情報 navi」

<https://jyosei-navi.jfc.or.jp/>



コラム

学齢超過の子どもたちとは？

「学齢超過の子ども」とは、学校に通うべき年齢(学齢)を過ぎてしまった子どものことを指します。日本では、義務教育は6歳から始まり、15歳で終わりますが、何らかの理由でその年齢を過ぎてから学校に通うことになる子どもたちがいます。学齢超過になる理由としては、家庭の事情や病気、引っ越し、留年などさまざまな要因が考えられます。

また、海外から日本に移住してきた子どもや、外国にルーツを持つ子どもも学齢超過の状態になることがあります。外国の教育システムでは、入学年齢が日本とは異なったり、飛び級や落第がある国があるため、海外で進んでいる学年の子どもが日本に来た場合、年齢は同じでも日本の学年では1つ下の学年に入ることがあります。このような場合、子どもは年齢に関係なく、実際の学習の進度に応じて学年を調整することが必要です。

さらに、言語や文化の違いがあるため、特に日本語を使うことに慣れていない子どもは、最初は日本の学校の学習に遅れが出ることがあります。日本語の理解が十分でないため、他の子どもたちと同じペースで学ぶのが難しいこともあります。このような子どもたちは、学年に合わせて進むのが難しい場合もあり、学年調整や個別の支援が必要になることがあります。また、日本の教育に馴染むために、言語や文化の面でもサポートを行うことが重要です。このように、学齢超過の子どもがスムーズに学校生活を送れるよう、学校で個々の状況に応じた柔軟な対応が求められます。

(公財)愛知県国際交流協会「相談員のためのハンドブック=子どもの教育編=」
P.31に詳細が載っています。

URL: <https://www2.aia.pref.aichi.jp/sodan/j/manual/manual.html>



第2章：準備をする

1年前～	半年前	5～3か月前	2～1か月前	開催月
第1章：企画する	第2章：準備する ➢ 会場手配 ➢ 講師等の依頼 ➢ 通訳手配	➢ 資料(日本語)作成 ➢ チラシ作成、翻訳の依頼 ➢ 広報先検討 ➢ 講師等との打合せ	➢ 参加者募集 ➢ 資料作成、翻訳の依頼、印刷 ➢ 必要備品・物品等の調達	第3章：開催する ➢ 前日準備 ➢ 当日の運営 ➢ 片付け ➢ (事業後)ふりかえり等

本章では、進路相談会を実施するにあたり、事前に準備することについて説明します。

1. 会場手配

地域の外国人児童生徒の現状を調べて、対象や定員が決まったら、会場を手配します。

(1) 場所

場所は、市町村役場や公民館の会議室やホール、学校の体育館等を手配するといでしょう。通訳をつけて、グループ形式(→P.27 配席図)で行う場合は参加者の2倍程の人数が入る会場を探し、相談会を行う上で必要な設備があるのかも、事前に確認しておきましょう。講師や体験談発表者の控室も手配できると事前に打合せ等しやすいかと思ひます。

また、駐車場がある施設を手配できると参加者も来やすいかと思ひます。そして、施設が有料の場合もあるので、事前に確認しておきましょう。

(2) 会場の使用時間

会場の使用時間は、実施するプログラムの内容(→P.26 プログラム)によっても異なりますが、当日は実施前2時間～実施後2時間程度の時間を手配すると良いと思ひます。事前準備や受付時間、後片付けの時間も考慮し、長めに使用時間を設定するといでしょう。

前日に準備する場合は、その時間も会場を押さえておくことが必要です。

2. 講師、体験談発表者等の依頼

講義を行っていただく講師と体験談発表者等を探して、依頼をします。

(1) 講師

依頼する際には当日の役割分担や、謝金と交通費が必要か、団体をお願いする場合は、共催にするか等も確認しておく調整がスムーズです。

なお、講義や質疑応答中は通訳が入るため、文章を短く切りながら、長くならないよう話していただくなど、日本語を母語としない人にも理解しやすい発表の仕方や内容にさせていただきよう、依頼する際をお願いしておきましょう。

★講師に依頼すること

➢ 当日の講義

- 内容例： ① 外国人児童生徒特有の進路に関する問題・課題
② 日本の進学や就職などの選択肢・システムの説明や、これからどうすべきか
③ 開催市・またその周辺の小中学校の子どもたちにとってどのような進路が考えられるか具体的な例(学校名や、その学校の特徴等)

※講義資料(→P.26 講義資料)を参考に、自分の市町村の情報を盛り込んだものをお使いください。

➢ 講義資料の作成、確認

➢ 当日の質疑応答への対応 など

(2) 体験談発表者

体験談発表者は、地元の日本語教室で学んでいた子どもをNPO法人の方に紹介していただいたり、地元出身の外国にルーツを持つ方が語学指導員の方をお願いしたりするとよいでしょう。

★体験談発表者に依頼すること

➤ 体験談 (→P27 体験談発表者質問リスト)

- 内容例: ① 受験までに準備しておくことや心構え、中学時代の苦勞
 ② 今の学校生活
 ③ どうやって日本語を勉強したか
 ④ 将来の夢、参加者へのメッセージ など

(3) その他

外国籍の方が多く参加しますので質疑応答の取り回し等で難しいこともあります。そのため、必要に応じて、こうした会の経験のある方に司会(ファシリテーター)を依頼するとよりスムーズに相談会が進むと思います。

また、役割分担についても主催者と講師、関係者で事前に決めておきましょう。

★役割分担例

市町村 (主催者)	<ul style="list-style-type: none"> 会場及び当日使用する機材等(パソコン、プロジェクター、音響機器、ホワイトボード、マイク、看板ほか)の用意 市町村内の広報(チラシの配布、広報誌への掲載ほか)、日本語教室や公共施設など関係機関等の協力確保、連絡調整 当日の資料・看板等の準備
教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校、教育事務所への広報 日本の教育制度及び進路に関する講師
両者がとも に行うこと	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談会の企画 当日の運営 ※会場設営、片付けも含む 質疑応答

3. 広報と参加者募集

会場・講師が決まったらチラシ等を作成し、広報を開始します。

(1) 広報する時期

開催日に先駆けて広報を始めます。遅くとも開催日の2か月前までには開始するのが望ましいです。また、資料翻訳や通訳準備等のため、募集締め切りも余裕をもって設定し、参加者のとりまとめをすといいでしょう。その後、講師や関係者と参加者情報を共有します。

広報を開始する前には、どういった媒体でどこに何部配布するのかも検討し、広報計画を作成するといいでしょう。

(2) 広報先と媒体

広報先を選定する前に、一般市民や外国人が集まりやすい場所、普段市町村で外国人向けの広報活動に使っているツールを下調べしておくといいでしょう。

使用する広報媒体としてまず挙げられるのがチラシです。チラシの配布先としては、市町村役場や図書館をはじめとした公共施設、地域の日本語教室等があります。外国人児童生徒が多く通う学校がわかっているならば、児童生徒や保護者に個別にチラシを手渡しするのも効果的です。学校等で外国人児童生徒に直接関わっている語学相談員や、地域の外国人コミュニティの代表者などにも情報提供や広報協力依頼をするのもいいでしょう。

また、そのチラシを市町村や学校等のホームページに掲載したり、LINE、FacebookといったSNSで共有するとより効果的です。外国人は特に友人・知人からの口コミや行政からのお知らせに加え、SNSによって日ごろ必要な情報を入手したり、仲間同士で情報交換を行ったりする人が多いので、SNSの活用はお勧めです。

なお、WhatsApp、微博(Weibo)、微信(WeChat)など、国籍ごとに使うメディアが異なりますので、情報を伝えたい人々が何を使っているのかを調べた上で、効果的に伝えられるメディアを活用しましょう。

(3) チラシ

チラシは、それを見た外国人が理解できるよう、できるだけ多言語翻訳版ややさしい日本語版を作成するのが望ましいです。(→P.26 チラシ)日本語の文章がある場合、漢字やカタカナにルビをつけておくといいでしょう。

また、会場までの地図や駐車場の有無、当日の対応言語も記載しておきましょう。会場のURLをQRコードにして、すぐ読み込めるようにしておくより親切だと思います。保護者だけでなく、子どもにも興味を持ってもらえるような工夫も心掛けるといいでしょう。

なお、チラシの翻訳には時間がかかりますので、早めに準備しておくことをお勧めします。

また、申込用紙・申込欄には、保護者と子どもの名前や学年とともに、相談会の際に通訳が必要かどうかを必ず聞いておきましょう。

★申込時に聞くことリスト例

保護者	子ども
<ul style="list-style-type: none">・名前・国籍・通訳(必要・不必要、言語)・連絡先(電話番号・メール)	<ul style="list-style-type: none">・名前・学校名・学年、年齢・通訳(必要・不必要、言語)・その他(いつ日本に来たか)

4. 通訳手配

地元の学校に多い国籍の言語を調べて、対応言語を決めたら通訳を手配します。

ベトナム語、インドネシア語、トルコ語をはじめ、希少言語の通訳は、他の言語よりも探すのに時間がかかりますので、早めに準備するようにしましょう。

希少言語など、どうしても地域で通訳を確保することが難しい場合は、近隣の市町村等に協力を依頼したり、通訳・翻訳会社を活用することも検討しましょう。通訳・翻訳会社は言語ごとに費用が異なりますので、ご注意ください。また、ボランティアであっても謝礼を支払う必要があることがありますので、通訳者・翻訳者用の予算措置はきちんとしておいた方がいいでしょう。なお、当協会でも通訳や翻訳を行う語学ボランティア制度がありますので、お気軽にご相談ください。

5. 資料作成と翻訳

配布資料及び内部資料、配布資料の翻訳について説明します。

(1) 配布資料

参加者に配布する資料には、プログラム及び講義資料、アンケートなどがあります。

参加者が手に取る資料は、全て多言語版かやさしい日本語版を用意してあると親切です。

それ以外にも、市町村で配布したい資料や相談窓口のパンフレット等があれば、一緒に机の上に置いておくといいいでしょう。

★資料作成にあたり注意すること

受験や学校の情報などは変わることが多く、毎年、最新情報を確認して資料を作成する必要があります。教育委員会や学校からの情報を早めに入手して資料を作るとともに、作成した資料の確認もお願いするなどして、正しい情報を提供するように心がけましょう。

※情報の入手先等はP.26第4章参照

(2) 内部資料

内部資料は、関係者が持っておくといいい開催要領や参加者名簿、進行要領等です。

当日の進行がスムーズになるよう、各担当の役割分担表も作成するといいいでしょう。

名簿には連絡先などの個人情報が入っているため、取り扱いには十分気をつけてください。

(3) 翻訳

配布資料は、事前に翻訳をします。専門用語が多く、時間がかかるので、余裕をもって早めに依頼するといいいでしょう。

依頼する場合に、翻訳料金がかかる場合もありますので、事前に予算をとっておくといいいかと思えます。また、言語によって高額になったり、納期に日数がかかったりする場合がありますので、注意が必要です。翻訳についても、当協会のボランティア登録制度等をご利用いただくことができる場合がありますので、お問い合わせください。

日時や曜日をはじめ、簡単な単語やよく使われる表現などは、Google、DeepLなどの翻訳サイトやアプリ等を活用してもいいでしょう。

なお、いずれの場合も、ネイティブチェックやダブルチェックなどを行い、正しく訳されているかを確認するようにしましょう。

(公財)愛知県国際交流協会のボランティアで、通訳や翻訳等をお受けできる場合があります。詳細は下記よりご覧ください。

URL: <https://www2.aia.pref.aichi.jp/topj/volunteer.html>



6. 必要物品の準備

会場内の設備やその他必要なものについて説明します。

(1) 掲示物 (→P.27 受付用看板)

当日は参加者が会場に来やすいよう、会場の場所や受付等の多言語看板を用意しておくといいでしょう。見やすく大きな文字で作成するのがポイントです。

(2) 内部資料 (→P.27 席札)

会場では、通訳がしやすいよう言語ごとに座ります。多言語で作成した席札をつけておくとな案内や進行がしやすいと思います。

(3) 会場内で必要な物 (→P.27 必要物品チェックリスト)

当日必要な設備や備品を確認し、準備します。講師や発表者がパソコン・プロジェクターを使って発表する場合があります。必ず、事前に確認しておきましょう。また、カメラやボイスレコーダーがあると、報告書等の作成に便利です。

★必要設備一覧例

- ・PC
- ・プロジェクター
- ・マイク
(3本程度: 講師用、司会用、質疑応答用)
- ・ホワイトボード

★必要備品一覧例

- ・ボイスレコーダー
- ・レーザーポインター
- ・カメラ
- ・講師飲料水
- ・その他文房具など備品



コラム

教育相談会実施事例をみましょう♪

●名古屋YWCAグローバルスクール

名古屋YWCAグローバルスクールでは、高校進学を目指す外国人生徒(中学3年生、過年度生、学齢超過生)を対象に、10月に進路ガイダンスを実施しています。その後、進学した高校生による体験談発表も行っており、進学に向けた具体的な情報を提供しています。また、11月中旬からは入試対策クラスを実施しており、入試ガイダンスや過去問練習などを通じて、入試に向けた準備をサポートしています。



●あま市・あま市教育委員会

外国につながりを持つ中学生とその保護者を対象に、夏休み期間中に、あま市と市教育委員会愛知県国際交流協会と共催で実施しました。プログラムの内容については、市教育委員会の指導主事が、地域で進学・就職する上で知っておくとよい入試制度や進路の選び方について講義するとともに、地域の日本語教室に通っていた外国にルーツのある高校生と大学生が、体験談の発表等を行いました。チラシを作成し、地域の国際交流協会や日本語教室を中心に呼びかけ、多くの参加者が集まりました。



外国人選抜試験のある高校はこんなところ！～愛知県立衣台高校～

豊田市にある愛知県立衣台高校(普通科)は、日本語指導が必要な生徒を最も多く受け入れている学校で、外国人生徒に対して様々なサポートを行っています。

合格者登校日に、基礎学力テストを実施し、入学後1人ひとりと面談をしてそれぞれの生徒に合わせた指導を実施しています。さらに、外国人生徒を対象とした取り出し授業も行われており、普通クラスと同じ教材を使用しながら、重要な単語やフレーズをわかりやすく説明することで、学習の理解を深めています。また、定期テストではルビがつけられる等、生徒に配慮された形となっています。

そして、衣台高校にはポルトガル語や中国語、タガログ語、スペイン語、ベトナム語を話せる支援員が週2日程度勤務しており、外国にルーツを持つ生徒のサポートをしています。支援員は、取り出し授業の補助を行うだけでなく、保護者とのコミュニケーションや、生徒が学校生活で直面する悩みの相談にも対応しています。生徒たちが安心して学び、生活することができるよう重要な役割を果たしています。加えてR6年度の1年生より学校設定教科「日本語」を実施しています。

また、毎年5月には外国人保護者向けの進路説明会が開かれ、高校卒業後の進学や就職、奨学金や教育ローンについての話を聞くことができます。この説明会は、保護者が子どもの将来に関する不安を解消したり、将来の選択肢を理解したりする場となっています。

放課後には「日本語教室」が開かれており、週に1回、外国人生徒教育支援員や高校教員、ボランティアが協力して日本語能力の向上を目指した支援や教科学習のサポートを行っています。この取組により、外国人生徒が学業や生活の中で直面する課題をクリアしやすくなっています。

※衣台高校のようなサポートがすべての高校で提供されているわけではないので、外国人選抜試験を受けて入学を希望する場合は、事前に志望する学校のサポート体制についてしっかり確認しておくことが大切です。



第3章：開催する

1年前～	半年前～ 1か月前	開催月		
		前日	当日	事業後
第1章：--> 企画する	第2章：---> 準備する	第3章：開催する > 会場設営 > 音響等確認 > 資料確認、設置 > 最終打合せ	> 受付・備品等準備 > 相談会運営 > 写真撮影、記録	> アンケート回収 > 会場片付け > ふりかえり
				> 各種支払い > アンケートとりまとめ > 報告書等の作成 > 講師への礼状送付 等

本章では進路相談会開始前、開催中、終了後の3つの項目に分けて、当日の流れやポイントについて説明します。

1. 開始直前

(1) 打合せの実施

当日のスタッフ全員が集合し、1日のスケジュールを確認します。

前日までに準備した役割分担表をもとに、ひとりひとりの担当の確認をします。誰が何をどのタイミングで実施するのか、曖昧なことがないようにします。

注意事項がある場合も情報共有しておきましょう。

第2章で紹介した役割分担表とは別に、当日の役割分担表を作成するのもよい方法です。初顔合わせのスタッフがいる場合は、簡単な紹介の場を設けるのもよいでしょう。

★当日役割分担表の例（13:00～15:30の場合）

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん
10:00 集合	会場設営	会場設営	備品設置・ 資料設置	備品設置・ PC等動作 確認	受付準備	受付準備
12:30 受付開始	受付補助	講師対応・ 打合せ	会場案内	講師対応・ 打合せ	受付	受付
13:00 開会	タイムキーパー	司会	記録	カメラ撮影	空調・証明 対応	受付待機
15:00 質疑応答	タイムキーパー	進行	記録	カメラ撮影	マイク	マイク
15:30 閉会	片付け	講師対応	備品回収	備品回収	アンケート回 収・片付け	アンケート回 収・片付け

(2) 会場設営

配席図(→P.27 配席図)をもとに会場設営を実施します。机や椅子などを配置するとともに、第2章で取り上げた必要備品や消耗品を設置します。会場や備品を破損しないように協力して作業を行いましょう。

電子機器類は設置完了後、正しく作動するか確認します。電池を使用するものについては予備の電池を準備しておくで安心です。

また、空調が適温に設定されているか、照明の明るさは適度であるかを確認し、教育相談会実施中に空調や照明の調節が必要な場合があるため、スイッチの場所や調整方法を把握することも必要です。また、会場外に受付を設置する場合には、早く来訪される方のために受付開始時刻の表記をしておくで安心です。

(3) 講師や通訳スタッフの対応

講師や外部業者通訳の方がいらっしゃったら、控室に案内しご挨拶します。講師の方が機器動作確認を希望された場合は、同行して実施します。(講師の方がパソコン等を持ち込んで講義される場合は、動作確認は必ず行いましょう。)

2. 開催中

(1) 受付

受付看板は参加する生徒や保護者の方に合わせて多言語表記で設置します。受付では、事前申込名簿と来訪者を照らし合わせチェックをします。名札や資料、アンケート等配布すべきものをお渡しし、座席を案内します。会場が広かったり、分かりにくい場合には、座席表をお渡ししたり、座席表を大きく印刷したものを掲示しておくのもよいでしょう。

事前申込があるものの、受付が完了していない申込者がいた場合、事前に決めておいた担当者に伝えます。担当者は該当者に電話やメールで連絡します。多言語での対応が必要であれば、通訳に対応を依頼します。

(2) 進行

事前に準備した進行要領をもとに教育相談会を進行します。進行中はマイクの音量や、空調、照明に気を配り、スムーズに進行できるように心がけましょう。また、講師の方や発表者に残り時間を伝えることも、時間通りの進行には必要なことです。

★ポイント

講義等では通訳する時間が必要となるため、講師の方にはなるべく文章ごとに区切って話してもらおうとともに、文章と文章の間に通訳の時間を確保してもらおうよう、事前をお願いしておくといでしょう。

途中から早口になってしまったり、区切ることを忘れてしまう講師もいます。常に通訳がきちんとできているか、会場の状況を見ながらチェックをして、必要に応じて進行役から講師に合図等を送ったりしましょう。

(3) 記録・撮影

写真や動画の撮影、録音については参加者の同意が必要です。進行要領の中で、参加者には説明したりしますが、十分に伝わっていない可能性もあるので、書面も準備しておくことも有効です。

ボイスレコーダーやスマートフォンの録音用の機器が使用できる場合は、相談会の開催中、録音をしていくといでしょう。録音できない場合は、筆記やパソコン入力で記録を取ることもありますが、パソコン入力で記録を取る際は、キータッチ音が参加者の邪魔にならないように注意しましょう。

写真の撮影については、広報の際、個人が特定できる写真を使用するには、ご本人の承諾が必要となります。個人が特定できないような写真を何枚か撮影しておくのも一つの手です。どうしても個人が特定できる写真を使用する必要がある場合は、事前に承諾書に記入してもらおうとトラブルを回避することができます。

さらに、開催の様子だけではなく、受付や机・椅子の配置、備品の設置箇所なども詳細に撮影しておく、次年度以降の開催の参考となります。

なお、まれに参加者自身が無許可で写真や動画を撮影したり、撮影したものをブログやSNS等にアップしたりしてトラブルになることがあります。参加者向けの注意事項に撮影禁止なども情報も含めるようにしましょう。

(4) トラブル対応

ここでは過去に生じたトラブルの例を挙げ、対応方法について説明します。

あらかじめトラブルが起こった場合を想定して、誰が何を担当しておくのか決めておくことが重要です。対応者を一覧にしておくといざというときに慌てずに対応することができます。

★トラブル対応者一覧の例

トラブル内容	対応検討・決定	参加者・該当者対応	関係者調整
気象情報など	Aさん・Bさん	Cさん	Dさん
遅刻者対応	×	Cさん	×
公共機関遅延	Aさん・Bさん	Cさん	Dさん
クレーム対応	Aさん・Bさん	Bさん	Aさん

<トラブルの例>

①大雨警報や暴風警報の発令

相談会開始前に大雨警報や暴風警報が発令されていた場合、または、警報が発令されていなくても今後台風が接近する予報が出ていたり、線状降水帯の発生が予測されていたりする場合などが想定されます。

「開始●時間前に警報が発令されたら」など、あらかじめ相談会中止の基準について検討しておき、チラシ等でも参加者に周知しておく心安いです。

中止が決定した場合は、すみやかに参加者や講師、通訳者等に中止の旨を電話やメール等で連絡するとともに、Webページなどでもお知らせしましょう。参加者向けには、中止が予測されることも考えて、事前に多言語で定型文を作成しておくといでしょう。

なお、開催中に警報が発令されたりした場合も、相談会を途中で中止したり、避難誘導したりするなど、参加者や講師等の安全を配慮しながら、必要な対応を行いましょう。

②遅刻参加者の対応

遅刻する参加者がいた場合（予め連絡を受けていた場合も含む）、受付で待機し、参加者が来たら席まで案内するなどの対応が必要となります。

すでに参加している方の邪魔にならないように考慮して対応しましょう。

また、遅刻者に対しても、可能な範囲で、資料を一緒に見ながらどこまで進んでいるか説明するなどのフォローをすると助かると思います。

③公共交通機関の遅延など

電車やバスの遅延や、周辺道路の渋滞など、遅刻者が多く発生することが予測される場合には、開始時刻の変更する必要があることも考えられます。

開始時間を遅らせることに関しては、関係者との協議・相談や、すでに集まっている参加者への説明も必要です。

④時間不足や時間余り

質問が多く、予定時間を過ぎてしまう可能性が発生した場合、可能であれば時間を延長するなどして対応してもよいですが、会場や時間に制限がある時は質問をメールやSNSで受け付けて、後日回答するようにしてもいいでしょう。

逆に進行が早く、時間が余りそうな場合には、質問時間や休憩時間を予定よりゆっ取り取るなど調整してもいいでしょう。

★ポイント

時間を延長して対応する場合でも、時間を延長して相談会を実施する旨をひとこと参加者には伝えましょう。参加者にも次の予定が入っているかもしれません。途中で退出可能なことを声掛けすることも必要です。

(4) アンケート回収

相談会が終了したら、次回以降の事業の参考にするため参加者にアンケートを取りましょう。

保護者と生徒で疑問に思う点や感想が違うこともあるので、参加者全員に記入してもらおうといいです。

アンケートは「やさしい日本語」で記載されたのものと、参加者に対応する言語で準備するといいでしょ。また、Googleフォームなど、Webを使用したアンケートも取り入れてはいかがでしょうか。それぞれに利点と欠点がありますので、自分たちにあった方法、参加者が回答しやすい方法でアンケートを実施しましょう。

どのような方法でアンケートを実施するとしても、時間を設けてその場で記入していただくと、アンケートの回収漏れを防ぎ、その後のふりかえりを早く実施することができます。可能であれば、その場で全員から回収できているか確認するといいでしょ。

★紙とウェブアンケートの利点と欠点		
	アンケート用紙への記入	ウェブを使用
メリット	<ul style="list-style-type: none"> その場で確実に回収することができる。 通訳が記入の手助けすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ウェブの翻訳機能が使用できる。 集計の手間が少ない。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 手書き文字が判読しづらい場合がある。 多言語での翻訳が必要となる。 集計に時間がかかる。 日本語で記入した場合、参加者の意図がつかめないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちがスマートフォンを持ってない場合がある。 日本語で記入しようとする時間がかかる可能性がある。

3. 終了後

(1) 会場の復元

講師の方や外部通訳者、参加者全員を見送った後、会場を元通りに復元します。

準備した備品や消耗品がすべて揃っているか確認しましょう。会場で借りた備品もそれぞれの場所に返却します。

(2) ミーティング・ふりかえり

スタッフで集まり、片付け忘れや忘れ物、施錠もれ、会場の汚れがないか再度確認します。会場の使用時間に余裕がある場合は、ふりかえりの時間を設けてもいいかもしれません。確認とふりかえりが終了したら、教育相談会は終了、解散です。おつかれさまでした。

第4章：参考資料等

日：日本語 英：英語 ベ：ベトナム語
 ポ：ポルトガル語 中：中国語 ネ：ネパール語
 ス：スペイン語 フィ：フィリピン語/タガログ語

1. 資料・印刷物等の例

資料をまとめてWebサイトに載せています。下記URLより、ご覧ください。

<https://www2.aia.pref.aichi.jp/kyosei/j/sodankai/sankoshiryo.html>



(1) 参加者募集チラシ



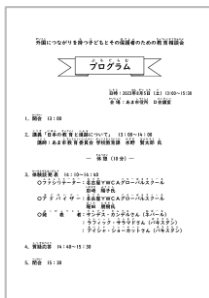
「外国につながるを持つ子どもとその保護者のための進路説明・教育相談会inあま市」チラシ

<対応言語>

- 日 [PDF](#) [PowerPoint](#)
- ポ [PDF](#) [PowerPoint](#)
- ス [PDF](#) [PowerPoint](#)
- 英 [PDF](#) [PowerPoint](#)
- 中 [PDF](#) [PowerPoint](#)
- フィ [PDF](#) [PowerPoint](#)
- ベ [PDF](#) [PowerPoint](#)



(2) プログラム



「外国につながるを持つ子どもとその保護者のための進路説明・教育相談会inあま市」プログラム

<対応言語>

- 日 [PDF](#) [Word](#)
- ポ [PDF](#) [Word](#)
- ス [PDF](#) [Word](#)
- 英 [PDF](#) [Word](#)
- 中 [PDF](#) [Word](#)
- フィ [PDF](#) [Word](#)
- ベ [PDF](#) [Word](#)



(3) 講義資料



「日本の教育と進路について」

<対応言語>

- 日 [PDF](#) [PowerPoint](#)
- ポ [PDF](#) [PowerPoint](#)
- ス [PDF](#) [PowerPoint](#)
- 英 [PDF](#) [PowerPoint](#)
- 中 [PDF](#) [PowerPoint](#)
- フィ [PDF](#) [PowerPoint](#)
- ベ [PDF](#) [PowerPoint](#)



(4) その他



「外国につながるを持つ子どもとその保護者のための進路説明・教育相談会inあま市」

進行要領 ※内部資料

[PDF](#) [Word](#)



豊和商国際交流協会
外編につながる保護者つどひ及び保護者
のための教育相談 in 安曇市

2023年8月5日(土) 13:00-15:30

○体験談発表質問リスト

- 自己紹介(名前・出身中学校・日本に来た理由)
- 通っている学校はどこですか？
- どんなことを勉強していますか？
- 中学校とは何が違いますか？
- どうしてもその学校に入学しましたか？
- 高校受験に向けてどのような勉強をしていましたか？
- 中学時代苦労したことはありましたか？
- 将来の夢を教えてください。
また、これからそれに向けてどうしていきたいですか？
- 中学生の先輩の皆さんへひとこと、コメントやアドバイスを
お願いします。

体験談発表者質問リスト ※内部資料

[PDF](#) [Word](#)



○配席図

配席図 ※内部資料

[PDF](#) [Excel](#)



Recepção
受付
Reception

受付用看板

[PDF](#) [Word](#)



oupidilɿ
Filipino

席札

<対応言語>

ポ・ス・英・中・フイ・ベ

[PDF](#) [Word](#)



★必要物品チェックリスト

- Mountain Project 本「プログラム・運営要領・アンケート」
- 名刺 30枚
- カートリッジ
- スティック 5冊
- 箸 5組
- 中皿 5枚
- フォーク 5組
- ナイフ 5組
- サラダ用紙 5枚
- 箸置き 5枚
- 箸袋 5枚
- カタナ
- バイオレトーカー
- ジェット 5(7-フル 5巻 3枚付)
- 持ち物 - ハンドブック 『子どもの権利』 国際児童権利宣言
- ノート 1冊以上
- M 用紙 10枚

必要物品チェックリスト

[PDF](#) [Word](#)



2. 教育相談会事業等の実施事例

実施主体	事業名	問合せ先・参考URL等	
刈谷市	外国人児童生徒語学指導員巡回指導	外国人児童生徒語学指導員巡回指導 かりや子育て応援ナビ https://www.city.kariya.lg.jp/kosodatenavi/1014910/1011895/1016189/1016221.html	
豊橋市	外国人児童生徒と保護者のための「進路を考える会」	公益財団法人豊橋市国際交流協会 http://www.toyohashi-tia.or.jp/tia-new-2024-shinro-oyako.html?20240720	
岩倉市	岩倉市日本語適応指導教室	実践報告書 ※令和5年度までの情報です。 https://www.iwakura.ed.jp/nihongo/jissenr3.pdf	
犬山市	日本の教育と進路についてのセミナー	活動報告 - 犬山国際交流協会 http://iiea.info/report1.html	
一宮市	外国人児童生徒向け進路説明会	外国人児童生徒向け進路説明会を実施します！ 一宮市国際交流協会Facebook https://www.facebook.com/100064791066271/posts/pfbid036XAfukSKFS5g6MmpJx6BnFSNYokCChz8UANxrr6c2Cty6BcGR7ubSgtaZEJgrf3Jl	
西尾市	就学説明会等	西尾市教育委員会が取り組む多文化共生教育体制の概要図 https://www2.aia.pref.aichi.jp/kyosei/i/so-dankai/nishio_education.pdf	
豊田市	外国人児童生徒等保護者教育説明会	豊田市教育国際化推進連絡協議会専門委員会活動報告書 https://www.city.toyota.aichi.jp/_res/projects/default_project/page/001/002/662/r0702/01.pdf	
豊田市	外国ルーツの子ども・若者の教育進路相談	特定非営利活動法人トルシーダ https://torcida.or.jp/	

3. 情報入手先など

(1) 参考資料、サイト等

	資料名	URL	
文部科学省	かすたねっと	https://casta-net.mext.go.jp/	
文部科学省	外国人児童生徒のための就学ガイドブック	https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1320860.htm	
文部科学省	外国人生徒の受入れの手引き	https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm	
愛知県	外国につながる子どもたちの進路開拓・進路応援ガイドブック	https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/shinro-guidebook2.html	

	資料名	URL	
愛知県	外国につながる子どもたちの進路開拓・進路応援ガイドブック	https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/shinro-guidebook2.html	
文部科学省	学校教育におけるJSLカリキュラム	https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/008.htm	
凡人社(書籍)	外国人児童生徒のための支援ガイドブック ～子どもたちのライフコースによりそって～	https://www.bonjinsha.com/goods/detail?id=824	
豊橋市教育委員会	外国人児童生徒教育の手引き	http://www.gaikoku.toyohashi.ed.jp/kyouikunotebiki/main1.html	
文部科学省	CLARINETへようこそ	https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/main7_a2.htm	
文部科学省	高等学校における外国人生徒等の受入の手引	https://www2.u-gakugei.ac.jp/~knihongo/feature/upload/koko_nihongo_tebiki.pdf	
文部科学省	高等学校の日本語指導・学習支援のためのガイドライン	https://www2.u-gakugei.ac.jp/~knihongo/feature/upload/koko_nihongo_guideline.pdf	
岩倉市	外国にルーツをもつ児童生徒のための「日本語・ポルトガル語適応指導教室」	※令和5年度までの情報です。 https://www.iwakura.ed.jp/nihongo/frame.htm	
多言語化現象研究会(書籍)	多言語社会日本～その現状と課題～	http://www.sangensha.co.jp/allbooks/index/349.html	
(公財)愛知県国際交流協会	外国人のための日本語教室一覧	https://www2.aia.pref.aichi.jp/koryu/resource/class/classtop.html	

※在留資格やビザ等に関する詳しい情報は、下記「相談員のための多文化ハンドブック子どもの教育編」をご覧ください。

(2) 関係機関

団体名	内容等	URL	
名古屋市教育委員会	日本語教育相談センター	https://www.city.nagoya.jp/kyoiku/page/0000050822.html	
(公財)名古屋国際センター	海外児童生徒教育相談	https://www.nic-nagoya.or.jp/japanese/servicecounter/education-consultation/	
(公財)名古屋国際センター	外国人の子どもと保護者のための進路ガイダンス資料	https://www.nic-nagoya.or.jp/japanese/publication/schoolguidance/handout.html	
(公財)愛知県国際交流協会	愛知生活便利帳	https://www2.aia.pref.aichi.jp/sodan/j/benricho/index.html	
(公財)愛知県国際交流協会	相談員のための多文化ハンドブック子どもの教育編	https://www2.aia.pref.aichi.jp/sodan/j/manual/manual.html	

4. 資料等に使える単語一覧

(1) チラシ

日本語	ポルトガル語	スペイン語	英語
進路相談会	Reunião de Aconselhamento sobre rumos futuros	Consulta sobre educación y rumbo futuro	Educational Guidance
日時	Data e horário	Día y hora	When
会場	Local	Lugar	Where
対象	Público alvo	Dirigido a	Subject
小学生	estudante de escolas primárias	estudiante de primaria	Elementary school student
中学生	estudante de escolas ginasiais	estudiante de secundaria	Junior high school student
内容	Conteúdo	Contenido	Contents
申込方法	Modo de inscrição	Modo de inscripción	How to apply
申込締切	Prazo de inscrição	Plazo de inscripción	Deadline for application
アクセス	Acesso	Acceso	Access
駐車場があります	Há estacionamento disponível	Estacionamiento disponible	Parking is available.
連絡先・問合せ先	Contato	Contacto	Contact / Inquiry

(2) 配布資料

日本語	ポルトガル語	スペイン語	英語
プログラム	Programação	Programa	Program
開会	Abertura	Apertura	Opening
講義	Palestra	Conferencia	Lecture
講師	Palestrante	Expositor	Lecturer
体験談発表	Relato de veterano	Relato de experiencias	Story of Personal Experiences
休憩	Intervalo	Receso	Intermission
質疑応答	Perguntas e respostas	Sesión de preguntas y respuestas	Q&A(Question and Answer) Session
閉会	Encerramento	Clausura / Cierre	Closing

中国語	フィリピン/タガログ語	ベトナム語
升学咨询会	Patnubay na Pang-edukasyon	Tư vấn hướng nghiệp
日期	Petsa at Oras	Ngày giờ
会场	Lugar	Địa điểm
对象	Kasali	Đối tượng
小学生	mag-aaral sa elementarya	Học sinh tiểu học
中学生	mag-aaral sa junior high school	Học sinh trung học cơ sở
内容	Mga nilalaman	Nội dung
申请方法	Paano mag apply	Cách thức đăng ký
申请截止日期	Huling araw ng aplikasyon	Thời hạn đăng ký
交通方式	Access	Cách đi tới hội trường
有停车场	May parking lot	Có bãi đậu xe
联系方式・咨询方式	Impormasyon para macontact	Thông tin liên hệ

中国語	フィリピン/タガログ語	ベトナム語
流程	Programa	Chương trình
开幕	Magsisimula	Khai mạc
讲座	Panayam	Bài giảng
讲师	Guro	Giảng viên
经验分享 (环节)	Kuwento batay sa Personal na karanasan	Chia sẻ kinh nghiệm
休息	Pahinga	Giải lao
答疑环节	Q&A (Question and Answer) Session	Hỏi đáp
闭幕	Pagtatapos	Bế mạc

(3) その他

日本語	ポルトガル語	スペイン語	英語
受付	Recepção	Recepción	Reception
日本語	japonês	japonés	Japanese
ポルトガル語	português	portugués	Portuguese
スペイン語	espanhol	español	Spanish
英語	inglês	inglés	English
中国語	chinês	chino	Chinese
フィリピン/タガログ語	filipino / tagalo	filipino / tagalo	Filipino / Tagalog
ベトナム語	vietnamita	vietnamita	Vietnamese
通訳	intérprete	intérprete	interpreter
資料はこちら	Os documentos estão disponíveis aqui.	Los documentos están disponibles aquí.	Handouts are available here.
ご自由にお取りください	Pegue à vontade.	Tómelos libremente.	Please feel free to take them.

中国語	フィリピノ/タガログ語	ベトナム語
接待	Pagtanggap / Reception	tiếp nhận
日语	hapones	tiếng Nhật
葡萄牙语	portuges	tiếng Bồ Đào Nha
西班牙语	espanyol	tiếng Tây Ban Nha
英语	ingles	tiếng Anh
中文	intsik	tiếng Trung
菲律宾语/他加禄语	filipino / tagalog	tiếng Philippines/Tagalog
越南语	vietnamese	tiếng Việt
口译	interpreter	thông dịch
材料在此处	Ito ang dokumento	Tại đây có tài liệu tham khảo
请自由领取	Huwag mag-atubiling kumuha	Đừng ngần ngại lấy tài liệu tham khảo



愛知県国際交流協会の外国人児童生徒に関する事業



公益財団法人愛知県国際交流協会(AIA)について

当協会は、諸外国との友好親善、相互理解を目指し、この地域の国際化、県民参加の国際交流の推進を図ることを目的として、昭和54(1984)年に設立されました。

この地域の国際交流の中核的な役割を担うとの認識の下に、県、市町村、市町国際交流協会、民間国際交流団体などの関係機関と連携し、①国際交流・国際協力活動の推進、②多文化共生の地域づくりの推進、③国際化の推進役となる人材の育成、④国際化に関する調査研究・情報提供に関する様々な事業に取り組んでいます。

外国人児童生徒に関しては、彼らが日本の教育システムに適応し、地域や学校で安心して暮らすことができるための支援に関する事業を行っています。

▽ 日本語教室で活動するボランティアの育成

県内各地で実施される日本語教室のボランティアを増やすための入門講座や、現在活動中のボランティア向けのスキルアップ研修などを実施しています。



▲ 日本語ボランティア入門講座
外国人の状況や日本語教室の活動について理解を深める講座で、いろいろな教室からの発表も聞きます。



▲ 日本語ボランティアスキルアップ研修
日本語指導の方法や教室運営、初期の学習者向けの指導など、様々なテーマで実施しています。

▽ 外国人児童生徒及び保護者のための進路相談会

県内の市町村や教育委員会、国際交流協会などが実施する進路相談会を支援します。また、相談会で使うための教育や進学に関する多言語資料を作成し、ホームページで公開しています。



▲ 外国につながりを持つ児童生徒と保護者のための教育相談会
日本の教育制度や中学卒業後の進路についての講義や、先輩方からの体験談を聞いたり、進学等についての相談をする事業を市町村等と連携して実施します。



▽ あいち多文化共生センター

外国人住民の方々を対象に、多文化ソーシャルワーカーが日常生活に関する相談・情報提供を行っています。教育や進学に関する相談などにも応じています。

また、複雑な問題を抱える外国人住民には市町村や福祉関係機関などと連携して継続的な支援をするほか、専門的なアドバイスが必要な方向けに無料の弁護士相談や在留・労働・消費生活の専門相談も多言語で行っています。さらには、国際交流や教育関連の情報も提供しています。

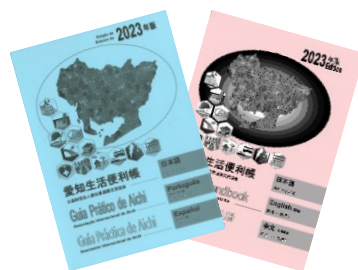


〈多文化ソーシャルワーカーによる相談・情報提供及び支援〉

日時： 月～土曜日 10:00～18:00

対応言語：ポルトガル語、スペイン語、英語、中国語、フィリピン語／タガログ語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、タイ語、韓国語、ミャンマー語、ロシア語、ウクライナ語、日本語

外国人向けの生活情報冊子や、相談窓口で活用できる対応ハンドブックも作成しています。



▲ 相談員のための多文化ハンドブック

外国人特有の問題やその背景となる各国事情、相談対応のポイント等を含めた相談対応冊子。子どもの教育編のほか、結婚・離婚編、社会福祉編(上巻・下巻)もあります。

▲ 愛知生活便利帳

在留手続き、労働、結婚・離婚、出産・育児、教育をはじめ日常生活に関する生活情報を集めた冊子で、英語・中国語版、ポルトガル語・スペイン語版があります。



上手く伝えるためには？

進路相談会を開いて、外国にルーツを持つ子どもたちや保護者の方々に入試制度や教育について説明する際、うまく伝わらないと感ずることがありませんか。それには言葉や文化の違いが影響していることもあります。資料を翻訳したり、通訳を使って説明したりしている方も多いと思いますが、実際に参加者に情報をしっかり伝えるためには、いくつかの工夫が大切です。

まず、翻訳した資料を渡すだけでは、必ずしも十分ではないことを意識しましょう。言葉を翻訳することも大切ですが、その背景にある各国の教育制度や文化の違いまで理解し、伝え方を工夫することが重要です。通訳を使って説明する場合でも、単に日本語を他の言葉に訳すのではなく、その意味やニュアンスがしっかりと伝わるように工夫すると、よりスムーズに理解してもらえることが多いです。

そのためには、まず参加者がどの国から来ているのか、その国の教育制度はどのようなものなのかを知っておくと良いでしょう。日本の教育制度について知っていることはもちろん大事ですが、参加者の出身国の教育制度や入試制度についても理解しておくと、より適切なアドバイスができます。

例えば、義務教育の年齢や期間は国によって異なります。日本では義務教育が9年間ですが、他の国では期間が短かったり長かったり、始まる時期が違ったりすることがあります。また、教育課程や進学のための試験も国ごとに異なります。ある国では大学に入るために何度も試験を受けることが必要だったり、成績次第で試験を受けるかどうかが決まったりすることもあります。このような違いを理解しておくと、参加者にとってより分かりやすい説明ができるようになります。

さらに、日本の大学は多くが4年制ですが、他の国では5年制の大学もあります。参加者が自国の教育制度と日本の制度の違いを理解できるよう、こうした点についても説明してあげることが大切です。また、大学入試のシステムや必要な書類なども国によって異なるので、事前に調べておくと、より親切で分かりやすい情報を提供できると思います。

このように、進路相談会を開く際には、ただ日本の制度を説明するだけでなく、参加者の出身国の教育制度を理解したうえで、その違いを踏まえた説明をすることが大切です。事前に調べておくことで、参加者が感じている疑問や不安にもしっかりと対応できるようになります。



外国人児童生徒向け進路相談会開催のための手引き

検討委員(敬称略、50音順)

伊東浄江	NPO法人トルシーダ 理事長
加藤牧枝	愛知県教育委員会義務教育課 指導主事
堀田朋樹	名古屋YWCAグローバルスクール
水野賢太郎	あま市立甚目寺南中学校 教頭

令和7年3月 発行

発行：公益財団法人愛知県国際交流協会

〒460-0001

名古屋市中区三の丸2-6-1 愛知県三の丸庁舎内

T E L : 052-961-1409

Eメール : kikin@aia.pref.aichi.jp

U R L : <https://www2.aia.pref.aichi.jp>